

## 【久留米市】

筑後川と共に久留米市のシンボルとも言える高良山。耳納山地の最西端に所在する標高312mの山です。

筑紫平野を一望できるこの山には、筑後国一ノ宮の高良大社が鎮座し、今も崇敬を集めています。また、高良山は九州の南北・東西を結ぶ水陸交通の要所を押さえる位置にあり、古代から神籠石こうごいしが設けられるなど、軍事拠点としても重要な場所でした。

1359年、懐良親王や菊池武光らは征西府を高良山へ進め、筑後川を挟んで少弐氏と対して、大保原の合戦を戦います。その2年後の1361年には遂に大宰府へ進出し、九州を制覇しました。

ところが1372年に、征西府は九州探題として派遣された今川了俊の反撃を受け、大宰府から高良山へ撤退することとなります。

南朝方はその後約2年間、高良山を征西府として北朝方と戦いました。その間に菊池武光・武政父子が相次ぎ急逝し、主力の菊地勢当主に弱冠12歳の武朝が就任する事態となった南朝方は、筑後川対岸に北朝方が迫る状況を見てついに高良山を放棄し、菊池の隈府城へ撤退しました。

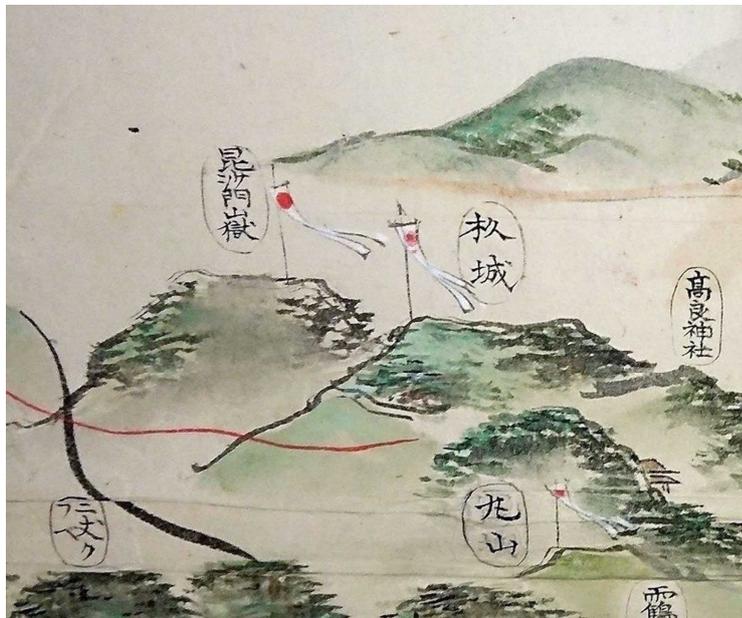
慎重な今川了俊は約1ヵ月もかけて状勢を確認したのち、ようやく筑後川を渡るとすぐに高良山を支配し、翌月には山鹿まで進軍しています。

これを最後に、南朝方の勢力は衰退していくこととなります。つまり、高良山は九州南朝の命運を握る山だったのです。

高良山の山頂にある毘沙門岳城（別所城）は、懐良親王が在城したとされる城で、空堀や土塁などの遺構が残っています。その直下にある高良大社奥の院には湧水があります。この湧水には、北朝方に高良山を包囲され窮地に陥った懐良親王らが、出陣に際しこの水で杯を交わしたところ、戦わずして敵が退去したという伝説があり、「勝ち水」と呼ばれています。



昆沙門岳城



昆沙門岳城絵図



昆沙門岳城  
横堀・土塁